



腰椎椎間板ヘルニアに対する 新しい治療法 ～化学的髄核融解術～

山形脊椎センター センター長

整形外科医師 杉田 誠

「腰椎椎間板ヘルニア」一度はその病名を聞いたことがある人は多いと思います。しかしながら、その病態を知っている人は数少ないのではないのでしょうか？日常診療を行っている「私、ヘルニアがあるから腰痛持ちで」とお話ししてくる患者さんが数多くいらっしゃいます。しかし決して腰痛＝ヘルニアではありません。腰椎（腰の骨）には脊柱管という神経の通り道があります。この脊柱管の中を馬尾と呼ばれる神経が通っており、さらにそこから神経根と呼ばれる神経が枝分かれのように出ており下肢に分布しています。そして、腰椎と腰椎の間には椎間板というクッションの役割をした組織があります（図1）。椎間板ヘルニアというのは椎間板がある理由で脊柱管に突出してしまい、主に神経根を圧迫して下肢痛を引き起こしてしまうのが主な病態です。

腰椎椎間板ヘルニアは自然に吸収（消えてなくなる）されることが多いため、通常は飲み薬や神経ブロックで痛みをコントロールしながらヘルニアが吸収されるのを待つという治療がメインとなります。しかし、その治療法で痛みのコントロールが難しい場合には、手術によってヘルニアを摘出するという治療がこれまでの

選択肢でした。ここに新しい治療法が2018年8月から行うことができるようになりました。コンドリナーゼ（商品名：ヘルニコア）という椎間板を融解する酵素を直接椎間板に注射するという治療法です。当院でも2019年から導入しました。飲み薬や神経ブロックによる治療で痛みが良くならない患者さんへこの治療を行うことによって痛みが改善する例が多数みられています（残念ながら効果がない患者さんもわずかにいますが）。手術に変わる新しい治療法として大いに期待しています。

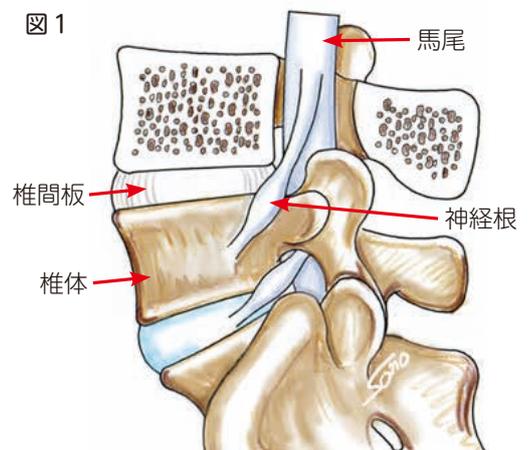
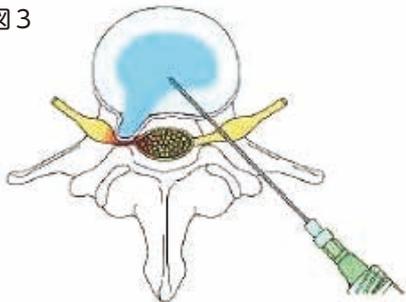


図2



図3



では、当院での化学的髄核融解術に実際を簡単にご紹介します。治療当日に入院していただきます。治療は手術室で行います。透視（テレビに写るレントゲン）を見ながら（図2）椎間板に針を刺し、針先が椎間板に入ったことを確認したのちに薬を注入します（図3）。アレルギーなどの副作用が出現しないことを確認後、お部屋に戻っていただき、翌日に退院となります。治療直後は椎間板が不安定な状態となるため最初の1週間は慎重に生活していただきます。運動や力仕事は1か月の間禁止です。その後少しずつ体に負荷をかけることを許可し、スポーツやハードな仕事への完全復帰は術後3か月を目安にしています。この間はこまめに外来に来ていただき定期検診を行うようにしています。

腰椎椎間板ヘルニアによる足の痛みがなかなか良くならない方、でも手術は怖くて受けたくないと思っている方、一度ご相談にきてみてください。詳しく丁寧に説明いたします。